

平成 30 年度 (2018)

国語 (第二回)

設問		得点率 (%)	設問		得点率 (%)
1 説明文	問1	71.5	2 物語文	問1	51.3
	問2	88.6		問2	99.4
	問3	30.5		問3	44.4
	問4	78.3		問4	40.3
	問5	51.3		問5	23.1
	問6	98.3		問6	37.3
	問7	89.1		問7	98.0
	問8	93.4		問8	94.3

平均点	総合	66 点
	2科	62 点
	4科	68 点
最高点	2科	77 点
	4科	94 点
最低点	2科	43 点
	4科	39 点

1 出典：梅津信幸『「伝わる！」説明術』

問一 「世の中のことがらが何でもうまく分類できるとは限」らない理由を述べる問題です。「境界線上にある」、「二つ以上の性質がある」から「分類できない」というのが解答の方向性ですが、どちらか一方の要素しか書いていない答案が大半でした。

問二 「写真を整理すること」が「分類できないもの」と言える理由を答える問題です。25行目に「一つのことながら二つ以上の分野にあてはまるとき、『分類してどこか一つの棚に収納する』という方法は使えません」とあります。よってウが正解となります。アは「そのことからの評価が下がってしまう」という部分が、イは「コピーして入れなければならない」という部分が、エは「自分の大切な経験なので」という部分がふさわしくありません。エと誤答する生徒が多く見られました。

問三 『「木を見て、森を見ず』状態」という表現を説明する問題です。傍線部の直前に「これは」という指示語がありますので、その内容を考えなければなりません、そのことに気づいていない答案が多く見られました。

問四 筆者がどのような状態を「わかる」状態だと考えているかを考え、解答らんにはふさわしい語句を本文中から抜き出す問題です。34行目に「私の考えでは何かが『わかる』とは、ものごとの相互関係が見えている状態だ」という記述がありますので、「ものごとの相互関係」という9字の表現を抜き出します。大変よくできていました。

問五 「科学」がわかりにくくなる理由を説明する問題ですので、「(科学は) ……から (わかりにくい)」という構造を考え、「……から。」の部分解答らんには書けばよいのですが、87行目「何かを『取り出す』とは、『全体の中でどういう関係を持ちながらそこにあるか』という、理解に不可欠な情報を捨ててしまうことなのですから。」をそのまま抜き書きした答案が目立ちました。「不可欠」を「不可決」とする答案が多く見られました。

問六 文中にあてはまる接続詞、副詞などを選ぶ問題です。ほとんどの受験生が正解でした。

問七 漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。概ね良好でしたが、「区画」を「区格」「区確」などとするもの、「典型」を「点形」「展形」などとする答案が多く見られました。また、「視野」を示偏とするものや、「武」に点を付け忘れていた誤答も一部ありました。

問八 本文の内容に合うものを考えます。アは分類できない理由を、友人と自分の記憶が異なる点としているところが誤りです。イは36行目の段落に述べられている内容と一致します。これが正解です。ウは分類できない理由を、性質が変化するからとしている点が誤りです。エはコンピューターや自動車に詳しい人にとって、聞いている人には細かすぎて必要のない話題こそが重要だと述べている点が誤りです。

② 出典：大崎梢『よつつ屋根の下』

問一 父が会社から漁師町にあるアパートを紹介された理由を、母がどのように考えているかを答える問題です。母の発言を探します。「お父さんを追い出した人たちが、新しい職場の人たちに、犬吠埼の近くを頼んだみたい。本人の希望だと言って。」(109～110行目)の内容を2行でまとめます。文末表現を誤っている答案が多く見られました。また解答らんには目いっぱい要素を盛り込もうとした結果、「係り受け関係」「主述不備」など文の構造が破綻してしまっている答案も目立ちました。言葉をただ切り貼りするのではなく、自分で意味を理解して答案作成することが重要です。

問二は成句の問題です。動物に関連する語から出題しました。正解は一がオ、二がウ、三がエ、四がイ、五がアです。

問三は空欄に入れるのにふさわしい漢字二字の言葉を答える問題です。「～を傾げる」に合うのは「小首」です。

問四は母の発言に僕が困惑した理由を答える問題です。主人公は転校先で友人に恵まれ、充実した生活を送っていますが、母は「いろいろ不自由のある中で、頑張ってくれた」(40行目)と一方的に決めつけます。イが正解です。アは母の一つ前の発言に対して主人公が

困惑した理由です。ウは「母に対して誇れるようなことは何一つしていない」という部分がふさわしくありません。エは本文にない内容です。大変よくできていました。

問五は、子どもが少しでも親しくなったり、世話になったりした人には必ず贈り物をする母が、その日に限って転校先の同級生の母親に何も贈り物をしない理由を考える問題です。

「できれば年が明ける前に戻ってきてほしいの。」(133行目)から、母が東京から移り住むつもりがないだけでなく、主人公を東京に連れ戻そうとしていることがわかります。贈り物をしないのは、転校先の人々と付き合いにくいからだとということがわかります。以上を2行以内にまとめます。「友だちになったのは転校生が珍しかったからであり、本当に仲が良いわけではないから。」「銚子には嫌がらせをしたい人がいるかもしれないと考えているから。」という誤答が多く見られました。

問六は「渾身の一球が、難なく打ち返される。」という比喩表現を説明する問題です。「渾身の一球」は「全身の力を出して投げた球」という意味です。ここでは「今日一番の本音」(122行目)を指しています。「難なく」は「たやすく、とくにむずかしいこともなく」という意味です。「打ち返される」は「発言を否定する」ことであると考えられます。

問七は副詞を補充する問題です。正解はAがエ、Bがイ、Cがウ、Dがオ、Eがアです。大変よくできていました。

問八は本文の内容に合うものを選ぶ問題です。アが正解です。アは「でもね、これ以上はいいわ。フミくんが犠牲になることはない。なっちはだめ」(129行目)の内容からこの選択肢を選びます。イは本文の内容から、妹が主人公と一緒に住みたいと考えているかどうかはわかりません。ウは本文の内容から、宮本が学級で働きかけてくれたかどうかはわかりません。エは本文の内容から、父が一刻も早く「ぼく」を東京に帰らせようとしているかどうかはわかりません。たいへんよくできていました。